

「3・11いわて教会ネットワーク」ニュース

Vol.19 2013年5月19日

あなたは、私に従いなさい

高橋 和義 (OMF 岩手支援プロジェクト・スタッフ)

今朝の岩手日報。作家の伊集院静さんが、「祈ろう」と呼びかけている記事が目にとまりました。「祈り」の意味は私たちとだいぶ違いますが、一般の作家がこの日に他のどんな言葉でもなく、「祈ろう」と言っていることに感銘を受けました。

第2回 3.11 記念集会で話することになり、一年前の同じ日に同盟基督教団の「祈りのつどい」にお招きをいただいてお話ししたことを思い起こしました。あの時、「この大震災について、まだどんな意味でも受けとめは出来ない。ただ苦悶だけがあった。」とお話ししました。一年後の今日、その気持ちは何も変わっていません。

大震災直後から、「これは神のさばきだ」という受けとめ方が喧伝されました。ひどい話です。ある方は、神様はこれこれのこのためにこの大震災を起こされた、と目的からお考えを話されます。またある方は、これこれだったから大震災が起こったんだと原因から考えます。またある方は、こういう結果が見られるからと、大震災の効果からお考えを述べられます。そして、だからよかったと。私は、どんな目的も原因も結果も、神様を主語にして語るのは「御名をみだりにとなえる」ことだと感じます。それは苦悶することを早々に切り上げて楽になるためのトリックだとも考えます。苦悶がある、少なくとも今はまだそれだけである、その苦悶を黙って受けとめながら、日々の活動に携わる、私はまだ今年もそれだけです。

その苦悶の中で多くの問い直しを突きつけられてきました。例えば、キリスト教会が行う支援と伝道の関係です。支援活動で広い協力を経験しながら、教派教団についても考えさせられてきました。また、私が都市でやってきた開拓伝道のスタイルと思想、これも問い直されます。この岩手沿岸部でいったいどのような教会が可能なのか。「よいクリスチャン」とは本当はどのようなクリスチャンなのか。私たち日本

の教会は「伝える」ことばかりに躍起になって、「仕える」ことをおろそかにしてきたのではないかと、という問い直しもその一つ。家族や地域社会から人を引き裂いて教会という領域に連れてくる伝道のあり方も問い直されます。

その一方で、豊かな夢というか、ビジョンもあるのです。被災地での教会の支援活動でどのような働きが行われるかによっては、おおげさなようですけど、明治以来のプロテスタント宣教の現実に変化をもたらす何かが始まるかも知れない！ここで祝福のうちになされた業は、日本全体の宣教の問題に何か大きな提起を投げかけ、何かを証しすることになるのではないかと！

けれども卑小な私は、日常的に不安と焦燥感にかられてもいます。他の被災地での素晴らしい働きの情報を聞いたりすると、何かもっと別のことを今やらないとダメなんじゃないかと浮き足立ちます。

最近、私をずっととらえているのは、「**それがあなたに何のかかわりがありますか。あなたは、わたしに従いなさい。**」(ヨハネ21:22)というみことばです。ペテロはヨハネが気になっていました。自分が「どのような死に方をし、神の栄光を現すか」をイエス様からずばりと告げられて、ヨハネを指し「主よ。この人はどうですか。」と思わず問うたのです。それに対する返答が上記のみことばでした。その時のやり取りを聞いていたヨハネは、後々、このみことばを自分のために繰り返し思い起こしたのではないのでしょうか。他の使徒たちが早い時期に殉教の死を遂げ、あるいはパレスチナを離れて遠くに宣教に向かったのを見ながら、ヨハネ自身は長生きし、ずっととどまって教会の長老として愛を説き続けました。最後にはパトモスに島流しにあい、黙示録を記しました。彼も幾度となく「主よ。この人はどうですか。」と問いたい気持ちになったのではないかと。

大震災から2年目の今日。被災者の方々の現在の状況に思いを寄せて祈りつつ、私たちの耳に、この同じ主のみことばを聞かせましょう。

(3.11 記念集会、説教要約)

支援活動、3年目に突入

3月11日を経て支援活動も3年目に入りました。3年目に入っても引き続き支援が与えられていることに心から感謝しています。特に、シンガポールの長老教会からボランティア・チームが毎月のように派遣され、岩手の各地でご奉仕下さっています。皆様の背後にあってのお祈りにも心から感謝します。

車の事故から守られますように

今年に入って支援活動中の車の事故が何件か起こりました。幸い大事には至っていませんが、注意が必要な状況です。疲労、慣れない土地での運転、忙しさ等、様々な要因が考えられます。またスタッフやスタッフの家族の間に、疲れている方々、体調不良の方々がおられます。支援の働きが事故やトラブルから守られるように、スタッフとその家族の霊肉が日々支えられるようにお祈り下さい。



3.11 記念集會に約 100 名の方々が集められました。

土曜学校@大船渡聖書バプテスト教会

地域に対する丁寧な関わりによって信頼関係が築かれ、3月後半より「土曜学校」が大船渡聖書バプテスト教会を会場に開かれることになりました。地域の方々のリクエストが教会に対して寄せられたのです。被災地での支援活動と、地域の教会とを結び合わせる働きが始まっています。支援の働きが教会の働きとして今後とも担われていきますよう、お祈り下さい。

スタッフの動向

昨年从今年にかけてスタッフとして奉仕して下さい、井上亮さんと、ヘルガ・タイスさんが働きを終えて、それぞれ故郷の岡山とドイツに帰られました。亮くんは岩手の各地で、ヘルガさんは一関ベースを中心に、気仙沼や気仙地区で忠実にご奉仕を担って下さいました。ありがとうございました。

4月より宮古コミュニティ・チャーチの教会員、芝本るみ子さんが新しいスタッフとして加えられました。また以前、スタッフだったクリスティーン・ジョーンズさんも岩手に戻って来られ働きを再開しておられます。



毎月、月代わりで岩手まで駆けつけて下さるシンガポールの皆様に心から感謝します。

2～5月に支援活動に従事して下さいました諸団体、諸教会

SENDO・インターナショナル、JECA 西日本チーム、キャンパス・クルセード、クラッシュジャパン、
 新城教会、玉川聖学院チーム、合同教会、シンガポールチーム、IBF、キリスト者学生会、
 厚別・北栄・インマヌエル混合チーム、OMF、香港チーム、オーストラリアチーム、
 小羊チャペル、宮古コミュニティ・チャーチ、同盟基督教団、カベナントチーム、盛岡聖書バプテスト教会、
 盛岡みなみ教会、北上聖書バプテスト教会、水沢聖書バプテスト教会
 (その他、個人としてチームに合流し、支援活動にあたって下さった方々が多くおられます。)

一つ一つのご奉仕、ご支援に、心から感謝致します。

編集後記

前ページに掲載したのは、3.11 記念集會の中で語られた説教の要約です。大震災を通して私たちは主なる神から何を問われ、今後、何を目指していくべきでしょうか。6月には支援活動に関わる団体の代表者と牧師達が集まり「宣教フォーラム」を開催する予定です。今までの支援活動を振り返りながら、今後の展望について話し合う予定です。(和)